

Citation: de Souza RF, Travess H, Newton T, Marchesan MA. Interventions for treating traumatised ankylosed permanent front teeth. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 1. Art. No.: CD007820. DOI: 10.1002/14651858.CD007820.pub2.

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: January 20, 2010

Clib issue No.; N/U: 2010, Issue 1; Updated

背景: 外傷歯が周囲の歯槽骨に癒着することがあり、その現象は骨性癒着といわれている。骨性癒着した永久歯の前歯は、顎顔面の成長過程での萌出が止まり位置異常歯(転位歯)となる。その結果、機能的、審美的な問題を抱えるようになる。また、骨性癒着歯は、歯根吸収をきたし、最終的には歯の喪失に繋がる。そのような骨性癒着した前歯へのいくつかの治療介入が試みられているが、どの治療法が最も効果的かは不明である。

目的: 骨性癒着した永久歯の前歯に対する治療法を評価すること。

検索戦略: 以下のデータベース、すなわち、Cochrane Oral Health Group Trials Register (to September 2009); Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) (The Cochrane Library 2009, Issue 3); MEDLINE (1950 to September 2009); EMBASE (1980 to September 2009); and LILACS (1980 to September 2009)を言語制限なしで検索した。

選択基準: 年齢は制限せず、骨性癒着して転位した永久歯の前歯に対する治療法を比較したランダム化比較試験(RCT)だけを選択した。

データ収集と分析: 評価は、2人のレビュアーが別々に行った。なお、著者が無関係にデータを抜粋したり、Cochrane Collaboration法に基づいたバイアスのリスクを評価したりする意図がある場合は除外した。

主な結果: 抽出されたのは、77研究となった。しかし、基準に合致した研究はなく、除外した。

レビューアの結論: 骨性癒着した永久歯の前歯に対する治療法を比較したRCTから導けるようなエビデンスはなかった。すなわち、この分野での高いエビデンスはないので、今後のうまくデザインされた研究が必要である。

(翻訳 稲垣幸司・監訳 豊島義博; JCOHR)

翻訳公開日: 2011年11月11日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。